

第2回検討委員会 委員からの質問、意見と回答

太字：検討委員の意見 細字：市の回答、コメント

中学校のみならず、小学校も統合すべきではないか

- ・ 今後の学校再編は必要と考える。小学校施設は老朽化したものが多く、適切に維持するには毎年多額の費用投資が必要だ。更に出生数が減少する予測もあり、既存の11校の維持管理は困難だ。小規模校の良さも理解するが、小学校の再編も避けて通れない。
- ・ 令和7年度に複式学級が予測されるのに、小学校統合の計画が挙がらないというのは理解に苦しむ。令和2年の出生が190人、その半数以上が北条中校区に偏っている。その子どもたちの入学前から方向性を示し、準備していくことが必要だ。
- ・ 6年間、16～17人で1学級、クラス替えがないより、小学校を統廃合して、クラス替えがある方が、子どもも親もありがたい。

中学校が1学年単学級になると、県から配置される教員の人数も減り、免許外の教科を指導する教員が発生します。また、部活動を指導する先生の数も少なくなります。これは中学校の制度上の問題で、その点は、小学校と状況が異なります。

数年後には小学校も複式学級の発生が見込まれます。複式学級のデメリットを克服する対応が直近の課題となりつつあります。

素案に対するアンケートを予定していますので、小学校の再編につきましても、地域や保護者の方々のご意見を伺いながら、慎重に、あるいは柔軟に対応してまいります。

中学校での免許外の教科指導の状況

年度	学校名	免許外の教科
令和3年	加西中学校	美術
令和2年	—	—
令和元年	善防中学校	家庭
	加西中学校	家庭
平成30年	善防中学校	家庭
	加西中学校	家庭
平成29年	善防中学校	家庭

学園構想、小小連携について

- ・小小連携で、共同授業や共同利用を行う場合には、業務が煩雑になり、教師の負担が大きくなる。特に北条小・北条東小・富田小の学園構想は子どもの人数も多く、運営は困難が予想される。
- ・小学校間交流の場合、移動が大変で、先生の負担が大きいといわれる。しかし、中学校生活へ向けて少しでも交流がある方が、子どもにとっては良いだろう。

各中学校区内の小小連携については、移動手段や場所の確保、学習方法を考える必要があります。また、北条学園と泉学園とでは、連携方法も異なってくると思われます。各中学校区の小学校6年生の人数は以下のとおりです。

学園の取組は、地域の特色や個性を再認識し、発揮させることによって、多様性を学び、教員も児童も刺激を受けて、コミュニケーションの重要性を学ぶことがねらいです。

各学園内においては、その規模や人数に合わせて、なるべく教師の負担増にならない方法を検討し、具体策を見つけていくことは可能であると考えています。

令和4年1月1日現在 各中学校区における6年生児童数

北条中学校区（北条小・北条東小・富田小）	152 人
善防中学校区（賀茂小・下里小）	38 人
加西中学校区（九会小・富合小）	73 人
泉中学校区（日吉小・宇仁小・西在田小・泉小）	51 人

小規模校における職員育成について

- ・「小規模校では先生の数も少なく、リーダー的な存在の先生が育ちにくい」といわれている。先生が多ければ、リーダーもいると思うが、少ない人数の先生だから、一致団結して、みんなで学校をつくりあげることもできやすいのでは。
- ・加西 STEAM を推進し、特色ある学校づくりを進めるには教職員の育成が絶対条件である。11校のままで、職員を育てていくのは困難である。

教職員の育成において、ある程度の学校規模・教職員数が必要であるというご意見は、学校現場の声として真摯に受け止めております。しかしながら、学園内の合同授業や交流によって、子どもだけでなく教職員の交流や学びも深まると考えております。学校の規模にかかわらず、児童の教育の質を保障することは不可欠です。

素案では STEAM 教育を柱とする新たな教育の取組や、学園構想による様々な手立てを講じることで、すべての教員の資質の向上と確保に努めていきます。

部活動の問題は解消できるのか

- ・文部科学省は「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革」（令和2年9月）において、令和5年度以降の「休日の部活動の段階的な地域移行」を提言している。それが国の方針どおり加西市で実現した場合、「クラブ活動や部活動の指導者確保が困難となる」というデメリットは解消されるのか。

文部科学省の示している地域部活動への移行は、休日が対象になっています。そのため、平日に指導する教員と休日に指導する地域人材との間で、調整を行う必要があります。

また、生徒数の減少に伴う部員の減少は深刻で、子どもたちが中学校に期待する部活動の環境や水準を維持することが難しくなっています。

こうしたことから、「休日の部活動の段階的な地域移行」が実現したとしても、中学校の小規模化にともなうデメリットは解消しにくいと考えます。

令和3年9月1日現在 活動中の部活動

学校名	部活名	野球	サッカー	バレーボール		バスケットボール		陸上競技	剣道	卓球 (男子)	ソフトテニス		ソフトボール (女子)	吹奏楽	美術	合計数
				男子	女子	男子	女子				男子	女子				
北条中学校		○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	13
善防中学校		○	○		○		○	○	○	○				○		8
加西中学校		○	○	○			○	○	○			○		○	○	9
泉中学校		○	○	○	○		○	○	○	○		○		○		10

なぜ中学校を2校に統合するのか

- ・何で中学校が2校になるのか知りたい。
- ・善防、加西、泉の3中学統合後の校区130k㎡はあまりにも広すぎる。校区の形を地図にすると、不自然で無理のある案だ。スクールバスを使っても片道30分かかるだろう。なぜ、北条中学校区以外の子どもたちが距離のハンディを負わなければならないのか。また、車酔いのある生徒もいる。

中学校の再編は、将来にわたって単学級が発生しない組合せを前提にしています。単学級になるたびに、何度も統合をくり返すことなく、令和8年以降にも単学級が発生しないことを根拠にしています。

令和3年3月、加西市教育委員会は、加西市の学校の「ありたい姿」を検討するために、教育委員とともに大分県九重町立「このえ緑陽中学校」を訪れました。九重町は別府市の南西、九重連山の北に位置する人口9,000人の町です。平成25年4月に、それまで4校あった中学校は一つに統合されました。小学校は、全校生徒数25人から123人の6校で全校存続されました。町の面積は271k㎡もあり、中学校はバス通学となっています。

もちろん、人口も面積も密度も地理的な条件も異なり、単純に加西市と比較することはできませんが、町の中心に位置する小高い丘の中腹に、美術館のような中学校校舎が建っていました。

当時、九重町では、中学校を一つに統合するからには「日本一の中学校を建てる」、と決意されたそうです。新しいことを始めるときは、相当高いハードルがあったと思いますが、それを乗り越えて、「早くあの中学校に行きたい」と憧れる「統合」を実現された見識は素晴らしいと思います。

このたび発表した中学校2校案では、3つの中学校が1つになるため、新しい場所に新しい校舎を建て、将来にわたって「あの中学校に行きたい」と思われる中学校をつくりたいという思いです。素案の17頁には様々な再編例を提示しておりますが、これ以外の案がありましたら、どうか忌憚のないご提案をいただければ幸甚です。

バス送迎の対応については多くの先行事例から検討を進めたいと考えています。

各意見の論点整理について

- ・素案7頁がこれからの加西の教育の姿であるなら、「ここに書かれている力をつけるためには、どのような学びの機会や環境が必要か」を出し合い、整理するとよい。その際、現状や今後の予測とのギャップ（埋めるべき点）が明確になれば、講じるべきことが見えやすくなるのではないか。
- ・アンケートが予定されているが、その場合も、上記で抽出・整理された事項に照らしてとるとよい。アンケートが関係者の認識を問うものだとすれば、それが唯一の判断材料にはならない。客観的な事実などと組み合わせて判断する必要がある。
- ・小学校11校存続・学園構想案、中学校2校への統合案のいずれに対しても、肯定的な意見と否定的な意見が出された。特に否定的な意見については、どこに問題があるのかの論点整理を行ったうえで、それがどのような意味で問題なのか、また、何らかの方法によって解消や軽減が可能かどうかを丁寧に検討していく必要がある。

素案に対して、学びの機会や環境がどうあるべきか、また、課題に対してどのような方策を講じればよいかということについて、学校管理職や教員、保護者の代表にも直接意見を聞く機会も設けております。今後は、アンケートも予定していますが、ご指摘の通り、その結果をあくまでも判断材料の一つとして、客観的な事実と組み合わせて判断できるようにしていきます。

また、委員からいただいた意見については、項目ごとに整理して、何が問題になっているのか、あるいはどのように改善することをめざしているのか、その論点を丁寧に議論・検討していくことが大事だと認識しています。次回の会議に向けて、論点を整理し、問題点や対応策等、必要な情報、資料を用意していきたいと思っております。

特別支援学校について

- ・素案では特別支援学校・学級のことがまったく触れられていないが、本委員会のどこかの段階で検討するべきではないか。

特別支援学校・学級については、小学校や中学校のように児童生徒数による学級編制基準があるわけではなく、障がいの種別や程度によって、児童生徒の特性に応じた教育が保障できるように兵庫県教育委員会が認可し、学級が設置されています。したがって、今回の加西市の小・中学校における未来の学校構想とは違う場面で、加西市がめざす特別支援教育のあり方を示していきたいと思っております。

今後の会議の進め方について

- ・しっかりとした話し合いをするには、当初の7回の予定では足りない。会議の回数を増やすべき。
- ・現在の小中学校の状態と、素案で示された小学校11校存続・学園構想案、中学校2校への統合案とではかなりの距離がある。今後検討していくことになると思うが、小学校11校存続・学園構想案、中学校2校への統合案のいずれについても、どのようなスケジュールでどのように準備を進めるのかを具体的に考える必要がある。
- ・保護者アンケート、小・中学生にもアンケート調査し、その結果をもって検討することが先である。
- ・小学校11校存続の必要性について委員の理解、共有ができるように、現地視察を含めて、じっくり検討する必要がある。

加西市未来の学校構想検討委員会は、今年9月末までの1年間を想定しておりますが、その間で回数を増やすことは可能です。その際には開催時期や議題についてもご提案いただきたいと思います。

また、アンケートを通して、教員、保護者、地域の代表にも直接意見を聞く機会も設けております。その結果を判断材料の一つとして、客観的な事実と組み合わせて判断できるようにしていきます。

あわせて、答申に盛り込むべきことや、答申後に継続的に審議すること、あるいは別途、検討すべきことなども、あわせて整理していきたいと思っております。

全体スケジュールにつきましても、具体的な作業を示しながら、詰めていきたいと思っております。先進地視察や小中学生へのアンケートも別途行えればと考えております。

上記以外にいただいたご意見

- ・素案7頁のイメージ図はとても分かりやすい。加西 STEAM は小学校からではなくて、こども園からというところがポイントだ。
- ・この素案をどう理解し、時代を読み解いていくのか。「地域に開かれた教育課程」をどう展開していくのか。子ども会の加入率は何%か。商業施設の中にある図書館の入館者数はどうか。このままで良いのか。正解はでない。子ども達の体験格差はなぜ生まれるのか。教育行政の枠を超えた総合行政的な取り組みがより必要となっている。
- ・中学校の2校案が新聞報道され、市民の多くはその方向で議論が進んでいる。賛否は別として、その辺りを考えた説明、発表の仕方があったように思う。
- ・小学校11校は残しても、学園構想（4学園）のもとに再編する案について、地域社会の学びと文化活動の核としての小学校を守っていくという点で、この案に基本的に賛成する。新しいことを始めるときは、何かとできない理由ばかりが指摘されがちだが、この案はチャレンジする価値がある。
- ・小学校の校長先生の意見について、疑問がたくさんある。教育委員会と現場の考え方にも温度差を感じた。そのあたりも今後の課題かと思う。